

広島大会 第4分科会 見て聞いて学ぼう ヒロシマ では、金子哲夫さんから「核兵器禁止条約と原水禁運動の歴史」をテーマにご講演いただきました。

『核と人類は共存できない』という言葉の深さと原水禁運動が非暴力運動を徹底し、被害者の側に立つ姿勢を貫いているということをお話の時間を学ばせていただきました。核兵器禁止条約は広島・長崎だけではなく、核実験被害者も含まれていること、この記載にはマーシャル諸島共和国政府の告発が大きな力となっていたことを知りました。この告発や調査団の派遣により事実を明らかにし、訴え続けていかなければ国際的な場から事実が消されてしまっていたかもしれないと知り、怖さを感じました。お話の中で特に印象に残ったのは、オーストラリア先住民族の娘さんの訴えた「ウラン鉱山は、私たちの祖先の聖地にある。その聖地が取り上げられ、私たちの同胞の無知をよきことにして、ウラン採掘の最も危険なところで、低賃金で働かされているのである。」という言葉です。

このお話を聞いた時、決して昔の話ではなく、現在の情勢にも似たものがあるのではないかと感じました。被害者が被害者として認められることが何故これほど難しいのか。

私たちは、知ろうと思えば学ぶことができる環境にいます。無知のままにはせず、関心を持ち続け、学んでいく必要があると感じました。

自分が教員の立場のため、教室の子どもたちに伝える時のことを考えました。ここ数年で、東日本大震災のことを知らない子どもたちと出会うようになり、伝える難しさを感じています。しかし、自身の体験や知識をもとに伝える言葉は、教科書以上のものを伝えられることも感じています。

学ぶことで、1人でも多くの人に「核と人類は共存できない」ということをそれぞれの言葉で話せて、伝わるようになると思います。オンラインでの集会となりましたが、オンラインだからこそ幅広く学べるメリットもあります。関心を持ち続け、次へ繋げていきたいと強く感じることでできた時間でした。

これで第4分科会の報告を終わります。

運営委員／千葉聡美（日本教職員組合）